

# 「はまかぜ」(金沢版)

平成26年3月14日号

連載 第51回

横浜市議員 おばた正雄氏 横浜を語る



ヨコハマ会 市議員団  
子どもにツケをまわさない!  
“横浜から日本を創る”

横浜市議 おばた正雄氏

## 〈プロフィール〉

金沢区生れ。旧民社党政策審議会  
で各種政策を研修。昭和54年よ  
り横浜市議。現在9期。ヨコハマ  
会市議員団代表。一貫して教育・行  
財政改に取組。6年前民主党離党。  
現在、無所属。憲法改正と日本の  
安全に責任を持つ保守新党を模索  
中。神奈川の教育を良くする会会  
員。日本会議会員。自衛隊募集相  
談員。各スポーツ・文化団体顧問。

## 〈ご相談・ご連絡先〉

事務所：金沢区谷津町332  
TEL：045-783-7869  
FAX：045-786-5315  
✉ obatamasao@gmail.com

## 予算市会報告② 放課後児童クラブにも学校施設の活用を!

## 子ども・子育てに学校施設の活用を提言

### 横浜市の子算 (保育所の入所問題)

市会は、3月25日まで開催。2月25日に行われた市会本会議での予算関連質問で、林市長に子ども・子育て支援策や財政運営等について質問。3月20日の総合審査でも市長に質問します。

おばた：4月の待機児童数の見直しと課題？

林市長：昨年1次審査後の状況と比較すると、保育所への入所が決定しなかった方は、751人増えて3353人です。特に1歳児に集中している。これから2次選考を行うほか、入所可能な横浜保育室を紹介するなど丁寧な対応を行う。待機児童解消継続に向けての課題について新たな保育ニーズが集中する地域へ受入枠を拡充していく必要がある、土地・建物や運営法人の確保が課題です。

さらに、低年齢児対策としては、0〜2歳児対象の規模保育事業を展開していく必要があり、保育施設拡大に

伴い、保育士不足が喫緊の課題。早急な取組が必要です。※金沢区では第一次審査で入所が決定しなかった方は70人(市民55人、市外15人)ですが、2次審査では横浜保育室への紹介などを含め入所できる見込みです。(区

のことも家庭支援課)

### 〈放課後児童育成事業〉

おばた：保護者と地域が関わるべき放課後事業の現状と課題は？

後事業は、従来から保護者や地域の方々が運営委員として運営に携り、スタッフとして関わるなど、様々な形で支えている。一方で、近年、働いている保護者の増加や意識の変化により、保護者自身の活動への関わりが薄くなり、放課後児童クラブについては、労務・経理等の事務処理についての負担感があるなどの課題がある。

おばた：放課後キッズクラブへの転換の課題及び進め方は？

林市長：放課後の留守家庭児童対応の充実のために、はまっ子ふれあいスクールから放課後キッズクラブへの転換が不可欠。休養スペースやキッチンなど

が、新たに必要です。しかし、35人学級の推進や大型マンシヨンの建設による児童数の急増などにより、学校施設に余裕がなくなり転換が進まない現状。今後は、校舎内の様々な空間の活用や学校敷地内へのプレハブ建設などできるだけ早期に全校転換を目指します。

おばた：周辺に遊び場が少ない放課後児童クラブへの配慮として学校の利用が必要では？

林市長：子どもたちの活動場所として、近隣の学校の校庭や体育館を利用できるよう、教育委員会と調整し、子どもたちが楽しく身体を動かせる場所と機会の充実を図ります。(次号に続く)